

— 気象講演会雑感 —

平成8年度北海道支部気象講演会報告

講演担当理事 大西晴夫 (札幌管区气象台)

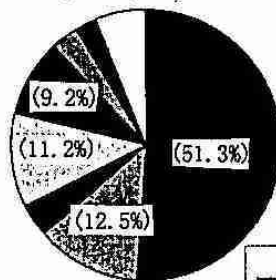
平成8年度の気象講演会は、以下の要領で行われた。

- 日 時：平成8年10月18日（金）13:00～16:40
 - 会 場：滝川市役所 8階大会議室
 - 主 催：日本気象学会北海道支部
 - 共 催：滝川市，滝川市教育委員会
 - 後 援：NHK札幌放送局，北海道新聞社滝川支局，
日本気象協会北海道本部，札幌管区气象台
- 講演の概要については、別稿の講演要旨を参照願いたい。

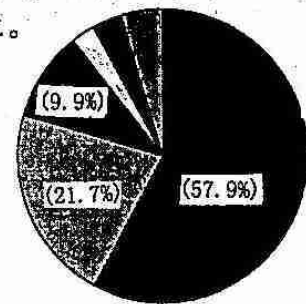
札幌以外の道内の都市で開催される支部気象講演会の歴史を遡ると、昭和42年（1967年）に、雪氷学会との共催で「北洋および北海道周辺の海上気象と雪氷に関する談話会」が函館で開催されたのが最初のような。以後、途中で10年間ほどの中断はあったものの、気象学会の全国大会が開かれる年を除いて、毎年1回のペースで継続されている。これまでは、気象庁の官署や、気象協会の組織がある町で開かれてきたため、その開催準備から当日の運営に至るまで、これらの地元の関係機関の人たちの労力に負うところが大きかったことが推測される。今回、初めての試みとして開催した滝川市には、現在は気象庁の官署も気象協会の組織もないため、講演会の準備や事前PR、会場設営などには滝川市役所に大変お世話になり、また、札幌の学会事務局の関係者も、例年になく、時間と労力を使うこととなった。

さて、講演会当日は朝から青空が広がる天気、終了間際にはわか雨となったものの、まずまずの講演会日和であった。滝川市役所は新築後間もない立派な建物で、大会議室も大きな部屋であったため、部屋の大きさに見合った数の聴衆に来てもらえるかどうか心配もあったが、期待以上の152名の参加があり、成功裏に終了できた。当日の参加者の年齢別、職業別の内訳は以下のとおりであった。

参加者の最大勢力が10代の学生であったのは、滝川高校の理数科の生徒が授業の一環として参加したため、いつもの講演会とはまた少し違う雰囲気でもあった。講演担当の佐竹正治幹事（日本気象協会）の司会で話していただいた4つの講演は、いずれもカラフルなOHPやスライドを駆使したもので、好奇心やロマンをかき立てられるとともに、視覚的にも楽しいものであった。



年齢別



職業別

